

# フィッシング、認証情報詐取の実態とその対抗手段

- 2004年、はじめて日本語のフィッシングメールが確認されました。以来、脅威は言語の壁を飛び越え、日本に続々と流入し、深刻な被害を与え続けています。犯罪技術は年々進化し、その巧妙さも増えています。詐欺サイトへ誘導する手口のみならず、2013年第1四半期にはマルウェアを組み合わせた「Banking Trojan」の本格的な上陸が確認され、今後は国内での定番化が予想されます。
- しかし、こうした脅威に恐れるがあまり、オンラインサービスの利用を萎縮してしまうことは時代に逆行することになります。
- そこで、本講演では利用する側が適切な知識を持つこととを目的に、認証情報に対する攻防の変遷と今について振り返ります。また、サイバースペースに参加するすべての人々の安心安全を確保するために行われている啓蒙活動について紹介いたします。

林憲明